

令和6年2月7日

十文字学園女子大学大学院
人間生活学研究科 研究科長
志村 二三夫 殿

学位論文審査報告書

学位論文審査願いが提出された下記の論文について、厳正に審査した結果、論文審査結果の要旨に示されたように 合格 と判定した。

記

学位論文の題目： 病院給食経営に関する研究
学位申請者：(氏名) 廣瀬 桂子
指導教員：(氏名・職位) 山本 茂、 教授

学位論文審査委員

主査 岡本 節子 (教授)
副査 岩本 珠美 (教授)
副査 山本 茂 (教授)



論文審査結果の要旨

学位申請者氏名：21DA002・廣瀬 桂子

論文題目：病院給食経営に関する研究

背景・目的

病院給食収支は、食費として政府や患者から病院に支払われる費用（収入）と、病院が食事提供に関わる総費用（支出）の差額である。食費は政府によって規定され、一般的な食事は640円/食、疾患別治療食は+76円/食加算される。病院は病床数によって病院の一般病院200床未満（一般的な診療）と地域医療支援病院200床以上（24時間重症患者を受け入れる）に分けられる（機能別分類）。病院機能が異なっても食費は一律に規定されていることから機能別に収支の比較（研究1）、全自動炊飯器導入（研究2）と集塵機能付き床洗浄機導入（研究3）による作業時間短縮や経費節減について調べた。

【研究1】病院給食収支の実態

方法： 2019年から2021年の3年間、一般病院13、地域医療支援病院10について、後ろ向きコホート研究で収支を調べた。一般病院では2019年から2021年の3年間約-1800万円の大幅な赤字、地域医療支援病院では2019年約-30万円から2020年と2021年の2年間約-800万の赤字に陥っていた。本調査の結果は、2021年法改正があり食費が670円/食へ30円/食値上げされていた場合でも、一般病院は約-1600万円、地域医療支援病院は約-210万円の赤字と試算される。人件費の高騰の結果2024年に食費が値上げされても、大幅な赤字の解消は困難であり、政府による食費の見直しが必要であることを示唆している。

【研究2】全自動炊飯器導入による経費節減

従来の自動炊飯器と、新しく導入した全自動炊飯器の導入前後6か月間の記録から比較した。全自動炊飯器の導入により、炊飯作業時間を約80%短縮でき、年間約272万円の経費節減が可能であった。

【研究3】集塵機能付き床洗浄機導入による経費節減

従来の床洗浄用具と集塵機能付き床洗浄機による調理室（清潔区域）の床洗浄作業について、6か月間の記録から調査した。集塵機能付き床洗浄機を導入により、洗浄時間を約33%短縮でき、年間約142万円の経費節減が可能であった。以上の結果から、A協会の一般病院と地域医療支援病院の給食収支は近年大幅な赤字であり、2024年以降食費が670円/食へ値上げされても、大幅な赤字が解消できない可能性がある。厨房に全自動炊飯器と集塵機能付き床洗浄機を導入することで、かなりの経費節減が可能であることが示唆された。

本研究は、13の一般病院と10の地域医療病院の経理状態を3年間調べ、どちらも大幅な赤字状態であり、一般病院がより大きな赤字であることを示したもので、政府が2024年度から一食あたりの食費を30円値上げしても、人件費や食材料費を補えるものではないことを示唆している。また、全自動炊飯器や集塵機能付き床洗浄機などの導入によって経費節減や労働条件の改善が期待されることを明らかにしている。これらの研究は、病院栄養士の日常業務を学術論文として公表したもので、今後栄養士が現場研究を行う道筋を示したことには特に価値があろう。

以上より、審査委員会は、研究課題としての学術的重要性、研究手法の妥当性、分析・考察の深さ的確性、さらに、独創性について審査した結果、本論文はすべてにおいて高く評価でき、博士論文としての要件を十分にみたすものと全員一致で判断した。